

縄文遺跡の価値を“かみくだきー！”

新聞やテレビで「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産の国内推薦候補に決定したというニュースをご覧になったでしょうか？でも、「どういうこと？」と頭をひねっている方もいるかもしれません。そこで、わかりやすく「かみ砕いて」説明しましょう。

ズバリ！

「北黄金貝塚や入江・高砂貝塚が世界文化遺産になりそうだ！」
ということです。

■縄文遺跡の2つの価値を“か・み・く・だ・きー！”

専門家がいうと・・・

価値①：北海道・北東北の縄文遺跡群は、狩猟・採集・漁労を生業の基盤に定住を達成し、成熟した縄文文化へと発展を遂げた先史文化の様相を伝承する無二の存在である。

これをかみくだくとー

「農業をしていない人たち(狩猟採集民)は獲物を追いかけて住む場所を変えるのがあたり前。でも、縄文人は村をつくって何百年も同じ場所に暮らすめずらしい人たちでした。同じ場所で暮らすようになったおかげで、知恵や知識が蓄えられてレベルアップ。だから、ビックリするような形の土器やきれいな色の漆器、天体の動きをあらわしたストーンサークルなどのお祈りの施設をつくれるようになりました。

つまり、文化を究極まで高めた「スーパー狩猟採集民」が日本列島にいたことを示す証拠が縄文遺跡なんです！縄文遺跡を調べれば、人類史的に稀な人々の生き方や考え方を知ることができるのです。」



専門家がいうと・・・

価値②：北海道・北東北の縄文遺跡群は、約1万年間もの長期にわたり気候変動や環境変化に適応し持続可能な定住を実現した、自然と共生した人類と環境との関わり、土地利用の形態を示す顕著な見本である。

はい、これも“か・み・く・だ・き〜”

「地球の自然環境は過去1万年間に暖かくなったり、寒くなったり、動物や植物が変化したりととっても大変。でも、縄文人は自然環境の変化に合わせて生きることができた「スーパー狩猟採集民」。どんな環境の時でも、山の中でも海の近くでも暮らすことができました。つまり、縄文人は土地の恵みを活かして、自然破壊を最小限に抑えることで自分たちが暮らしやすい環境を1万年間も守ってきたことがわかります。これって、世界的にみてもめずらしいんです。うーん、西洋人もビックリ！」

